「L字型」か「直線化」か
JR高架問題で揺れる釧路
鶴間秀典市長の「ホンネ」と「建て前」

いま、JR高架をめぐって釧路が揺れている。

とは言うものの、争点になっている「L字型」や「直線化」といっても読者にはピンと来ないのが正直なところだ。

霧のマチ・釧路でいったい何が起きているのか。そこにスポットを当て高架問題に迫る――。

（本誌取材班）

蝦名氏の苦肉の策「L字型」

昨年10月に行われた釧路市長選で前道議の鶴間秀典氏が、現職の蝦名大也氏を破り、初当選を果たした。

その鶴間新市政で、JR高架問題をめぐって釧路市民の意見が「L字型」か「直線化」かの真っ二つに分かれ、揺れに揺れている。

蝦名前市長が推進してきた「L字型」計画に対して新市長の鶴間氏が異を唱え、「直線化」を主張したからだ。

このJR高架問題は伊東良孝市長時代からの懸案だった。道内の主要都市は概ね整備が完了しており、残るのは釧路市のみ。しかも釧路駅は駅舎の老朽化が進み、〝待ったなし〟の状況にある。

そんな中、蝦名前市長が推進してきた「L字型」は、駅の南北に接続する道路を歩行者専用道とバス専用道路の「L字型」で整備するもの。一方、鶴間市長が唱える「直線化」は、一般自動車と歩行者が通行できる直線の道路で整備する計画だ（図）。

そもそもJR高架で「L字型」か「直線化」かの問題が浮上したのは、今回の市長選で、鶴間氏が街頭で「直線化」を唱えてから。ちなみに「直線化」は、正式には鶴間市長の公約にはなっていない。

「直線化」を支持する会社役員が、こう説明する。

「当初、釧路でJR高架が問題になった伊東市長の時代には『直線化』だった。ところが蝦名市長になっていつの間にか『L字型』に変更されて市長選が行われるまで市民は『L字型』だとは知らなかった。『L字型』は蝦名市長が勝手に進めた政策で民意を反映していない」

一方、「L字型」に賛成する都心部市街地整備特別委員長の大澤恵介市議は、こう経緯を説明する。

「蝦名市長も当初は『直線化』の計画だった。でも『直線化』だと国の事業に採択されない可能性が高く『L字型』に変更したんです」

釧路の高架事業は国の「連続立体交差方式」を採用する計画で、こ

続きは『月刊クォリティ』本誌をご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
https://qualitynet.co.jp/koudoku/

○お電話でのお申し込みはこちらから
TEL 011-644-0101
（9:00 ～ 17:30　土日・祝日をのぞく）